

こぶしの花

Kobushi no Hana

青森中央学院大学
青森中央短期大学
青森中央経理専門学校
青森中央文化専門学校
認定こども園
青森中央短期大学附属第一幼稚園
認定こども園
青森中央短期大学附属第二幼稚園
認定こども園
青森中央短期大学附属第三幼稚園
幼保連携型認定こども園
中央文化保育園
幼保連携型認定こども園
浦町保育園



撮 影：青森中央学院大学4年 鳴海 しづの

特集：看護学部飛翔式


vol.95

目次

特集：飛翔式 2

青森中央学院大学 4

- ・「むつサテライトキャンパス」での活動
- ・A-SWEETS プロジェクト
- ・COC+ 学内体制スタート
- ・青森中央学院大学カーリング部 OB 日本カーリング選手権大会出場
- ・鈴木健二氏特別講演会
- ・市町村長リレートーク
- ・サイクルガイド養成制度について
- ・第1回教育フォーラム
- ・タイ同窓会設立
- ・海外留学報告会
- ・国際交流センターより
- ・浅虫温泉・海山クアの道(ドイツ式健康ウォーキング)へのお誘い
- ・青森県看護協会「まちの保健室」
- ・看護研究発表会
- ・サークルライフ
- ・私の1冊
- ・ゼミ探訪
- ・OB 通信
- ・学生記者発

青森中央短期大学 10

- ・特別研究
- ・看護研究
- ・「できるだし弁当」販売
- ・福祉介護人材確保対策事業
- ・幼稚園・保育園合同説明会開催
- ・心を繋ぐおばあちゃんの郷土料理
- ・先生の自分史
- ・研究室を訪ねて
- ・読んで欲しいこの1冊
- ・卒業生も活躍しています
- ・学生記者発

附属第一・第二・第三幼稚園
浦町保育園 中央文化保育園 14

- ・行事アルバム
- ・先生達活躍しています
- ・読み聞かせたい一冊の絵本

青森中央文化専門学校
青森中央経理専門学校 16

- ・ユニバーサルファッションショー参加
- ・Bunka Fashion Live 2015 に携わって
- ・研修旅行
- ・日本銀行青森支店を見学して
- ・経理発信情報
- ・ファッション通信
- ・おススメ図書
- ・卒業生ピックアップ

学園共通 18

- ・Bunka Fashion Live 2015
- ・幼児保育学科45期生卒業記念公演
- ・古本募金開始!
- ・キャンパスイルミネーション
- ・公開講座「女性実業家 広岡浅子」
- ・教員書籍紹介

特集 看護学部飛翔式 -10月27日実施-



飛翔式は、看護の専門科目を幅広く学び始める2年次後期を節目に、大学で看護学を学ぶことの意義を探究し、自らの学修の姿勢を明確化することを目的に実施されました。式では学生代表が、学生の願い・教員の願いを基に作成した「誓の言葉」を発表しました。

式にあたり最も大事にしたことは、学生主体で企画・運営すること、学生個々の思いを反映した「誓の言葉」を作り上げることでした。学修の姿勢について深く考え、そして明確にするため、様々な分野で活躍中の5人の看護専門職者をお迎えし、キャリア形成や現在の活動をご紹介いただくとともに、グループに分かれての意見交換会を行いました。学生はこの時に得た学びを参考に、将来の夢や目標を思い描き、誓いの言葉を一人1枚のカードに表現しました。同時に、将来に向かって飛翔する天使の絵を大パネルに描き、個々の誓いの言葉を天使の羽一枚一枚になぞらえて飾りました。そして式の当日、この絵は飛翔式のシンボルとして壇上に設置されました。

このように飛翔式は、看護学部1期生全員の努力により生み出され、「誓いの言葉」は今後の学修の道標となりました。

実行委員の思い

青森中央学院大学看護学部2年 田中 雄大

私達は、青森中央学院大学看護学部1期生として、新たな式典を行うことになりました。「学生が主体となって看護学を学んでいく」をテーマに、式の名称やプログラムを委員会で決めていきました。これからの看護学部の伝統となるものを作るために、何度も委員会のメンバーは会議を行いました。しかし、煮詰まってしまうことも多く、教員の方々にアドバイスをいただいてやっと作り上げることができました。

今回、委員会の一員として飛翔式を成功させたことで、人と関わり物事を成すということに自信がもてるようになり、看護学生としてこれからの学びの糧になったと思います。



～専門識者との意見交換会(10月6日実施)より～

10月27日の飛翔式に先立ち、地域で活躍する看護師・保健師・助産師の方々との意見交換会を実施しました。



「地域で活躍する保健師」
青森中央学院大学看護学部2年 小形 莉々沙

私達は、地域で活躍する保健師さんのさまざまな経験を聞き、今の私達がどのような生き方をすればよいのかを明らかにすることができました。1つ目は、あきらめずに目標に向かって頑張る事が大切だということ、2つ目は、患者さんの家族のことも分かってあげられるような接し方をする事です。私は今回の飛翔式で、どんなに大変でもあきらめずに、勉強を続け、納得のいく就職先で患者さん、家族の気持ちを理解できる看護師になろうと決意しました。

「海外で活躍する看護師」
青森中央学院大学看護学部2年 運上 美空

海外で活躍されている看護師との意見交換会で、印象に残っていることは、「協力隊として現地に行っても、日本人は何も求められていない」ということです。そこでは「自分に何ができるのか」と自分で考えて探すことから始まり、つまりアセスメントすることが必要だと気がしました。活動する現場は違っても、接していく人と信頼関係を築いていくことが一番大切であり、看護師として求められるスキルだと学びました。



「企業で活躍する保健師」
青森中央学院大学看護学部2年 山田 柚子

企業で活躍する保健師さんの話を聞き、大きな企業になると勤労者と企業を支援する役割である産業保健師が置かれ、従業員が安全に働けているか確認したり、メンタルケアの相談を受けたり、医師や人事担当者との連携を図りながら、企業全体の従業員の健康的な就労を支えていることを学びました。企業で働く保健師の具体的な仕事内容を知り、保健師の活躍の場が広いことに感動しました。看護師以外の就職も視野に入れて、今後の大学生活を送りたいと思います。



「地域で活躍する助産師」
青森中央学院大学看護学部2年 佐藤 香代

助産師さんからお話を聞き、助産師は辛さや苦しさを遥かに上回る、感動や充実感を得られる職業であることが分かりました。そして、忙しい中でも仕事と私生活を充実させるために趣味を持つことが大切であり、それが働く意欲にもつながることを学びました。学生時代の学びが働いてからも活かされていると聞き、毎日の授業、予習復習を大切に、正しい知識・技術を身に付け、患者さんに信頼される看護師になりたいです。



青森中央学院大学

『むつサテライトキャンパス』での活動

10月6日に開設された『むつサテライトキャンパス』では、地域住民・弘前大学とともに様々な取組が進められている。

サテライトキャンパス開設記念として開催された「むつ市の未来を考えるシンポジウム」では、本学から学生2名が参加し、むつ市の将来について市長を交えて意見交換が行われた。

また、12月11日には、『むつサテライトキャンパス』活用の為の「知恵だしワークショップ」が開催された。高等教育機関の無いむつ下北地区で、地域と大学が連携してどんなワクワクすることが出来るか、ファシリテーターを務めた経営法学部佐藤淳准教授の下、参加者が議論を交わした。このワークショップには、本学からも学生3名が参加したほか、現在むつ市で働く本学OBも参加し、地域の活性化に向けた意見を述べていた。



COC+ 学内体制スタート

文部科学省の「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」COC+プラスの学内組織体制が整った。学内COC+運営委員会（委員長：花田学長）のほか、共有インターンシップ、女子キャリア支援、ツーリズム関連プロジェクト別に学内推進チームを編成し、全学体制でCOC+事業に積極的に関わっていく。また、新たに設けられたCOC+推進事務局は地域連携コーディネーター、青森地区ブロックコーディネーター、事務補佐員の3人体制でCOC+事業を支えていくこととなった。

平成27年度は事業が本格化する平成28年度に向けた体制整備、事業計画検討が中心となるが、地域就職率、インターンシップ参加者数などの達成状況も問われてくる。なお早速、青森ブロック本学主催のインターンシップシンポジウム（3月3日）、弘前大学主催のCOC+シンポジウム（3月11日）などが開催された。

（地域連携センター長 高山 貢）



A-SWEETSプロジェクト

経営法学部2年『キャリアプランニング』では、現場を体験して学ぶ「実践教育」を取り入れた「Gコマース」活動を行っている。平成27年度は、顧客視点と女子学生の感性とアイデアで地元産品を活かした「オリジナルスイーツ」を開発する、「A-SWEETS プロジェクト」に挑戦した。

女子学生達が県産品の情報収集や分析を行い、2月のバレンタイン向けに、イタリア語で赤ちゃんの幸せを意味する「Bambice」とネーミングしたオリジナル商品を企画開発した。ゴボウ、カシスなど県産品5種をパウダー状にして練りこみ、焼きあげたクッキー生地チョコレートやホワイトチョコレートがサンドされた可愛いスイーツである。

メンバーは、青森市内のデパートで実売も行った。マスコミにも大きく取り上げられ、大好評であった。今後は、大学発の企画商品として継続販売したいとメンバーは考えている。

（経営法学部教授 高山 貢）



青森中央学院大学カーリング部OB 日本カーリング選手権大会出場

青森中央学院大学のカーリング部OB（夏井坂泰基さん、藤村正貴さん、吉田崇彦さん）を中心に結成された青森CAチームが、2月7日から青森市で開催された日本カーリング選手権大会において、東北ブロック代表として出場した。

決勝トーナメント進出をかけて善戦を重ねたが、チーム東京との対戦において、延長11エンドで惜しくも敗退となった。

試合後、カーリング部OBのメンバーが本学石田憲久理事長を訪問し、試合結果の報告とともに、公式ユニフォームに装着する大学名入りクレスト提供のお礼を述べた。今後の更なる活躍を期待したい。



鈴木健二氏特別講演会

地域社会活動委員会では10月28日、元NHKの看板アナウンサーで、人気番組「クイズ面白ゼミナール」や「紅白歌合戦」等の司会を務め、大ベストセラー『気配りのすすめ』等の著者で知られる鈴木健二氏の特別講演会を開催した。

「みちのく わが心のふるさと」と題して講演された鈴木氏は、冒頭に、一家が第2次世界大戦の東京大空襲で被災した直後、旧制弘前高等学校（現弘前大学の前身）に入学するため満員電車で辛うじて乗り込み津軽・弘前にやってきたと語り始めた。

ついで、学生寮である「北溟寮」の責任者となり、食料調達のため県内のみならず県外まで走り回る毎日で、ほとんど講義に出られなかったが、仲間の応援や教員の配慮により卒業できたこと、こうした津軽での日々が私の人格形成に決定的に大きな影響を与えてくれ、生涯忘れることのできない「我が心のふるさと」だと話した。

（地域社会活動委員会委員長 高橋 興）



サイクルガイド養成制度について

地域マネジメント研究所では、あおもりツーリズム創発塾事業の一環としてサイクルガイド養成システムの研究を青森サイクルツーリズム協会と連携して実施している。12月には、日本サイクルガイド協会の代表理事である渋谷亮太郎氏をお招きして講演会を開催した。同協会ではサイクルガイドの認定制度を立ち上げ、全国的な視点からのガイド育成と今後のガイドライセンス管理を実施していくという。これを受けて、研究所では平成28年2月に沖縄県において開催された検定講習会に2名の県内サイクリストを派遣し、県内初の認定ガイドの誕生をめざした。さらに、2月25日には北海道観光局から専門家を招聘して「北海道アウトドア資格制度の仕組みと実態」というテーマで講演会を開催し、山岳やカヌー、ラフティング、トレイルライディングなどの分野におけるガイド養成プログラムについて討議した。これらの活動を踏まえて研究所では青森県に適したサイクルガイド養成制度について具体的な提案をしていく予定となっている。

（経営法学部 内山 清 教授）

特別公開講義「市町村長リレートーク」

地域社会活動委員会では、11月4日から3週連続で、学生と市民が共に学ぶ特別公開講義「市町村長リレートーク」を開催した。

この特別講義は平成20年度から、地域における様々な課題について市町村長が何を考え、どのような具体的な取組をしているかを聞き、今後における地域マネジメントの在り方について学ぶことをめざしている。本年度は、秋田県能代市の齋藤滋宣市長、今別町の阿部義治町長、むつ市の宮下宗一郎市長の3名が登壇した。

齋藤市長は参議院議員などを務めた豊富な政治経験に裏付けられた取組について、阿部今別町長は新幹線の北海道延伸に伴う町の取組を中心に話した。また、本学が連携協力協定を結んでいるむつ市の宮下宗一郎市長は、

「未来を切り拓く挑戦者たちへ」と題して現在の取組について熱く語った後、学生たちへ奮闘を求めるエールを送り話を締めくくった。

（地域社会活動委員長 高橋 興）



第1回教育フォーラム

青森中央学院大学地域社会活動委員会では12月5日、第1回教育フォーラム「人口減少が続く地域社会における教育の在り方を考える」を開催した。本フォーラムは、今日、多くの市町村において児童・生徒の急激な減少に伴い、学校の統廃合が大きな課題となっているため、北東北3県の教育関係者と市民等が集まり情報交換し議論する目的で開催したものである。

フォーラムの冒頭には、学校統廃合をめぐる全国的な動向に精通している国立教育政策研究所の屋敷和佳総括研究官が講演した。同氏は豊富なデータをもとに北東北三県が置かれた危機的状況について解説した。

次いで、市内全校のコミュニティ・スクール化に取り組む秋田県由利本荘市の佐々田教育長、教育財政に詳しい岩手県岩泉町の三上教育長、青森県で小中一貫教育に取り組む三戸町の友田教育長が、それぞれの実践を踏まえた事例発表をし、活発な議論を交わした。

（地域社会活動委員長 高橋 興）

タイ同窓会設立

青森中央学院大学は、平成10年の開学時から積極的に海外からの留学生を受け入れている。この度、11月29日にタイ同窓会設立総会をバンコクで開催した。タイ同窓会は、平成27年2月設立のマレーシア同窓会、同年3月設立のベトナム同窓会に続いて三か国目の海外同窓会となった。

タイ同窓会では、平成10年の開学と同時に入学した第1期生のポーティクン・アタポン氏が会長に就任し、今後の同窓会活動の促進をする予定である。また、マレーシア・ベトナム同様、青森県へのグリーン・ツーリズム旅行や教育旅行、観光旅行の誘致を支援する「青森サポーターの会」としても活動する予定である。



海外留学報告会

11月26日、前学期に海外留学を経験した学生8名による海外留学報告会が開催された。学生は、アメリカ、タイ、台湾での生活や交流、異文化理解の大切さ、外から日本を再確認したことでの視野拡大などについて報告した。

学生にとっては、初めて海外で友達を作ったり、コミュニケーションを取るなど、自身の積極性を高め、座学では学べない場を体験し、問題を解決していくなど貴重な体験ができたことは、とても良い収穫になったようである。

なお、平成27年度にはさらに2月から3名がオーストラリア・マッコーリー大学に、1名が中国・上海大学に短期留学したため、全体で経営法学部11名、看護学部1名の計12名が海外で貴重な経験を積むこととなった。



国際交流センターより

未来をつくる人財育成プロジェクト

大学が地域と連携し、小中高校生を対象に将来のグローバル人材を育成する目的で実施する、「未来をつくる人財育成プロジェクト～「わ」も「な」も地球人～」を、公益財団法人中島記念国際交流財団の助成を得て、平成27年度に初めて取り組んだ。

このプロジェクトは、小中高校の求める内容に応じた講座メニューを考えて、青森中央学院大学の留学生と地域交流団体の市民による国際協力実行委員会（AICC）所属の経験豊富な日本人コーディネーターを青森市内の小中高校に派遣する。そして総合的な学習の時間や放課後子ども教室で外国の言語や文化、料理等に触れることから、国際平和や多文化共生など国際社会の一員として考えるまでの講座を行うもので、延べ22事業を実施した。



チューター制度による学内サポート&国際交流

海外から入学してきた不安いっぱい留学生を、学内制度に基づき採用されたチューターがサポートしている。平成27年度は日本人学生8名（経営法学部6名、看護学部2名）がチューターに採用され、留学生と友達になることから始め、ウエルカムデスクでいろいろなテーマで会話したり勉強でわからないところを教えたり、さらにはたこ焼きパーティーやスポーツ大会で交流を深めている。留学生にとってもチューターにとっても貴重な体験となり、自身の成長につながるため、さらに促進していきたい。



浅虫温泉・海山クアの道(ドイツ式健康ウォーキング)へのお誘い

平成26年秋から大学と青森商工会議所、青森銀行との協定事業の一つ、浅虫温泉・海山クアの道において行われているドイツ式健康ウォーキングに協力しています。その一端をご紹介します。なお、「クア(kur)」とは、ドイツ語で療養・保養のための滞在を意味します。通常は「オルト(ort)」, 場所・地域ということばと合わせて「クアオルト(kurort)」つまり療養地と使われます。

このドイツ式健康ウォーキングの特徴は、「冷たくさらさら」と「頑張らない」ということにあります。ウォーキング中は汗をかきそうになったら袖をまくり、襟をあける、上着をぬぐなどして汗を蒸発させて、肌を「冷たくさらさら」な状態で歩くということです。また、自分の状態に応じて無理のない速度、「頑張らない」で歩くということです。そのためか、浅虫温泉道の駅を出発し、むつ



湾展望台を廻り、浅虫海岸の砂浜を歩いて道の駅に戻るといって、4.2キロ、約90分のコースも汗をかくことは殆どありません。ハアハアしながら頑張っている歩いているとガイドさんから「頑張らないで、ゆっくりゆっくり」と声をかけられます。

参加者からも「運動イコール高い負荷のイメージがあったが気軽に組み組めることがわかった」、「歩くことの楽しさと気負わないで歩く心地よさを感じた」、「浅虫の自然を再確認出来た」「砂が疲れを取り除くという体験が驚きでした」という感想があります。

浅虫温泉というと何度か訪れたことがある方も多いと思いますが、ぜひ海山クアの道を歩いて、新しい発見をしていただきたいと思ひます。

(看護学部教授 山本 春江)



青森県看護協会「まちの保健室」

青森県看護協会では、県民の心と体の健康づくりに貢献することを目的として「まちの保健室」を設置しており、このたび県内で4つ目の保健室がサンロード青森に新設されました。ここでは看護学部教員が交代で、健康相談ボランティアとして協力しています。また、11月に開催されたオープニングイベントでは、看護学部の2年生6名も保健室のPRや健康チェックのサポーターとして参加し、多くの方と触れ合いました。

買い物のついでに気軽に立ち寄った利用者は、血圧や血管年齢、骨密度、体脂肪率などの測定結果から日頃の生活習慣を振り返ったり、健康の悩みについて熱心に相談していました。青森県民の健康寿命延伸を目標に、今後も幅広い世代の心と体の健康づくりサポートができるよう、協力していきたいと思ひます。

(看護学部 菊池 美智子)

※サンロード青森「まちの保健室」は毎週日曜日、11時から14時まで、3階・こどもの遊び場近くの一角に開設されています。



看護研究発表会

看護学科3年 加納 地球

私は「アディクション看護」について看護研究を行いました。私自身初めて聞く内容で、文献も少なく、内容も難しくなってしまうがちでした。そのため、どのようにまとめると良いのか、発表でどのような工夫をすれば研究内容を分かりやすく伝えられるのか、研究を進めるうえで大変でした。しかし、大変なことばかりではなくて、学ぶことも多くありました。看護研究の進め方はもちろん、アディクション看護という新たな看護の知識や、過去の自分の記録を見て「もっとこうすればよかった」「記録はこう書くべきだった」など、自分の看護の振り返りができました。

基礎看護学領域の代表として発表しましたが、この研究をまとめることができたのは、ゼミのメンバーや先生の力があつたからこそできたことです。今回、発表という貴重な機会を得られた事を無駄にせず、今後の看護師としての経験に活かしていきたいと思ひます。



サークルライフ ハンドボール部

今回はハンドボール部を紹介する。ハンドボール部は選手13名、マネージャー1名で活動している。他の部活動も使用するため、大学の体育館を使用できないときは近隣の大学や高校にまで赴き練習に励んでいる。

学生リーグ1部昇格を目標に掲げ、今年度は学生リーグ2部2位という結果を残した。現在ハンドボール部は監督が不在であり、3年の篠崎さんが部長と監督の役割を果たしている。篠崎さんは、練習場所の確保とチーム全体の士気を高めることに苦勞したが、1年の時に比べると部活に対する意識が大きく変化し自身の成長も感じると話した。次期部長の山本さんは、今の3年生がチームの主力なので、秋に先輩方が抜けた後に穴の空かないようなチーム作りに努めたいと話した。監督が不在だからこそ3年生を筆頭に部長を支え、

学年を越え結束力が強いチームだ。来年こそ1部昇格を果たすため新たな部員も募集中である。

(学生記者 相馬 芹香)



私の1冊

経営法学部 藤巻 啓森 先生

『ニュースがよくわかる 教養としての日本近現代史』

河合 敦著 (祥伝社, 2015)

ニュースなどで、日本政府や官僚の言動について、中国や韓国がことあるごとにいろいろなクレームをつけてくるのを目にする。それは何故だろうか。特に、総理や閣僚の靖国神社参拝、従軍慰安婦問題などに周辺国から激しく苦情をつけられる。その回答は学生の皆さんのうち、どの程度が分かるであろうか。日本近現代史を知らなければ、その回答も見つからないであろう。

本書は上記についての疑問に答えてくれる。日本が近代史の中で近隣に何をしたのか、また現代になってからどのように国際社会に貢献したのかを、歴史の中から知ることは、近隣諸国からのクレームを理解する上で必要である。

本書は、ペリーの黒船来航から、日清戦争、日韓併合、日中戦争、沖縄の基地、安保関連法案など歴史の順次に、実にわかりやすく書かれている。ぜひ学生の皆さんにお勧めしたい。

ゼミ探訪～鈴木芳美ゼミ～ Vol.31

鈴木芳美ゼミでは、主に財務会計論の研究をしています。標準的なテキストと難易度の高いテキストの2冊を中心として、財務会計の基礎から応用まで幅広く学べることから、会計初心者から経験者まで学ぶことができます。各章の担当者を決め、レジュメを作成し、発表するとともに、疑問点や意見を出し合います。2冊のテキストをまとめることは大変ですが、レジュメを作成することにより知識を深め、発表することによりプレゼンテーション能力が養われるので、とても有意義な時間を過ごしています。また、日本商工会議所簿記検定の取得にも励んでいます。資格は一生の財産となるので、私も取得に向けて頑張っています。



ゼミの雰囲気はとても明るく、賑やかです。ゼミ生は皆仲が良く、笑いが絶えません。ゼミの時間以外にも飲み会等を通じて親睦を深めています。最後になりますが、鈴木芳美ゼミは会計に興味がある人にはおススメです。(経営法学部2年 篠崎 拓也)

OB 通信

拝啓 青森中央学院大学様

私は平成27年度より、東北町役場に勤務しております。業務については福祉課の障害福祉係に所属しており障害者の方々に対する行政サービスの提供や、障害を持っている人たちがより暮らしやすいように各所と連携を取り合いながら障害者に対する住民の理解を深める事業を行っております。

働き始めてまだ日が浅く、日々勉強の毎日ですがとてもやりがいを感じています。

後輩の皆さんには、より多くのことを経験し、多くの人と関わりを持つことが将来の自分の糧になることを伝えたいです。学生時代はゼミ活動やサークル活動、学生団体や遊びなど様々なことをしやすい時期です。その活動などで経験したことや関わった人たちとのつながりは必ず自分の糧となります。そのことはすぐには実感できない人も多くいると思います。しかし、時間がたつとき、その経験は自分の自信や力となってくれます。

後輩の皆さん学生時代という恵まれた環境でより多くの経験を積めるよう頑張ってください。皆さんの活躍を心より願っています。 敬具

経営法学部第14期生 櫻井 学

突撃！ 教えて！先生 その8 高山 貢先生に聞く

今回は高山貢先生にインタビューしました。

—専門の科目は何ですか？

現在は金融論、地域経済学、暮らしと経済の3つを教えています。

—その科目を選んだきっかけは何ですか？

大学教員になる前に勤めていた一般企業で、データを活用した経済調査をしていました。その時に人口や経済動向や産業動向などを調査し、地域の経済や金融に非常に興味を持って研究してきたので、今それらを生かして教えています。

—学生時代のエピソードを教えてください。

弘前大学に通っていたので、弘前で下宿をしながら全国から集まった学生と色々な話をしながら楽しく過ごしました。当時、学生運動で授業がなくなることも多々ありました。

—休日は何をしていますか？

車の運転が好きなのでドライブや温泉に行ったりしています。あとは2・3日くらいの旅行です。名古屋や札幌、大阪などに行きました。

—本学生の印象は？

皆さんいい学生達だと思いますが、比較的小となしいと感じる子が多いです。自分の考えをしっかりと相手に伝えることは練習しなければ難しいの

で、私のゼミでは人前で話す訓練をしています。プレゼンテーション力は学生のうちに身につけておいた方がいいと思います。またせっかく留学生が多い大学なので、積極的に触れ合って国際感覚をもう少し磨いてほしいと思います。

—学生へ一言お願いします。

しっかり勉強してほしいです。私の学生時代は自分の国や県について考えていた時代ですが、今は海外がもっと身近になりました。グローバル化から人・モノ・金・情報が行き来し、直接的に衣食住にも関わってきています。青森県に住んでいても、海外を視野に入れた考えを持ち、勉強・生活・職業選択に生かして欲しいと思います。青森県にずっといるのも一つの手ですが、青森にいても海外で働きたいという希望を持ったり、海外マインドを大切にしてください。

(学生記者 相馬 芹香)



～若者歩き～

Vol.9

留学生と語ろう～タイ編～

今回紹介するのは「cafe202」です。お店には、ソファ席が3席、テーブル席が2席あります。メニューは、パスタやパンケーキなどですが、その中でも1番のオススメは極厚パンケーキです。今までに見たことのない厚さのパンケーキで、生地がしっとりしていてとても美味しいです。しかしこの極厚パンケーキは、14時以降、1組1プレートしか注文できないので、食べたい方は14時以降に行ってみてください！

店内では、Wi-Fiとコンセントを自由に使うことができます。ハンドメイドの作品も販売されており、どれも手が込んでいて、可愛いものばかりでした。個室もあり、セミナーやワークショップの他、個室で勉強したいという方も利用できます。

お昼の時間は混み合う場合が多く、待ち時間なしの狙い目は16～17時だそうです。

(学生記者 佐藤 教衣・相馬 芹香)

cafe202

営業時間10:00～19:00 年中無休
有料駐車場有り(飲食で3時間無料)



今回はタイからの留学生にお話を聞きました。
学生(以下学)：本学の好きなところは？
留学生(以下留)：留学生が多いところと、いろんな活動に参加できるということです！
学：じゃあ、たくさん思い出ができたのでは？一番の思い出は何ですか？
留：海の日、浅虫でBBQをしたことです。海にも入ったんですが、とても気持ちが良かったです！
学：これから青森で挑戦してみたいことは？
留：ウィンタースポーツです！特にスキー！雪だるまも作りたいし、やりたいことが沢山あります！
学：日本人にオススメのタイ料理はありますか？
留：サイウアです。ソーセージのようなものですかね。辛いですがとても癖になる美味しさです！
学：最後に一言！
留：友達をつくって今以上に日本語が上手になりたいですし、もっと日本人の人と仲良くなりたいです！よろしくをお願いします！

留学生のみなさんは、学内だけでなく、新町サテライト・キャンパスでのイベントなどに積極的に参加し、母国の料理や文化などを青森の人たちに発信しています。みなさんもぜひ、積極的に交流してください！

(学生記者 鳴海 しづの)

青森中央短期大学

特別研究発表会

食物栄養学科

11月26、27日の2日間にわたり、特別研究発表会が開催された。食品の成分、県をPRする食品の開発のほか、図書館での栄養士の役割のなど計35演題が発表された。今年度は特に短命県返上を掲げた青森県の取り組みと連動する題材も豊富であった。「減塩」を主題とした発表には、できるだけだしや和食の活用、加熱時間や添加方法、出しと調味料の組み合わせなどの調理実験、海外の成功した減塩の取り組みの調査と検討などがあった。また、「野菜摂取不足」を主題として、食育媒体作り、冷凍保存と活用性などが発表された。栄養士として何ができるのか、青森県にどのように貢献できるのかと思いを馳せる題材が多く、2年間の成長が伺われた。今後は社会人として種々の問題に取り組んでもらいたいと思う。



幼児保育学科

今年度の特別研究発表会では、47テーマが2号館1階・2階にポスター発表の形式で12月1日～3日までの3日間掲示され、一年生が熱心に読む姿がみられた。そして、12月4日には、幼児保育学科の特別研究発表会が開催された。ポスター発表を見た上でより詳しく知りたい内容を選んだ学生達が、発表会においてプログラムに示された時間に各研究室の発表場所に集まり口頭発表を聞くという発表形式で実施され、質疑応答時には積極的な参加が見られる場となった。4月からじっくりと進めてきた研究をまとめ、伝えるという体験から、達成感と自信を感じる事ができただろう。



介護研究～個別援助計画実践報告会を行って～

専攻科福祉専攻科では、介護研究として「個別援助計画実践報告会」を平成28年度専攻科入学予定者参加のもと実施した。報告会では、実習を通して得た介護過程の意義、国際生活機能分類(ICF)の視点を基に行った個別ケアの実践内容、介護福祉士として携わった利用者一人ひとりへのニーズの実現に向けての取組等が報告された。

介護福祉士には利用者の生活(暮らし)を支える際に、専門的で根拠のある介護の支援内容が求められる。利用者が望む「よりよい生活」「より良い人生」の実現は、専門的知識を活用した客観的で科学的な思考過程=介護過程により進められる。

個別ケアの実践による利用者の自己実現をめざすこと、また、多職種協働・連携による適切な支援を提供することは、QOL(人生の質)を高めることを意味している。

学生による報告会発表を聞き、「医療的ケア」を学び、それが活かされたことを実感するとともに、入学予定者にとっても実りのある報告会であったことを願う。

(専攻科福祉専攻准教授 中村 純子)

食物栄養学科の学生考案による弁当第4弾「できるだし弁当」の販売

産(イトーヨーカ堂)学(青森中央短期大学)官(青森県)が連携し、青森中央短期大学食物栄養学科の1・2年生が考案した弁当が、今年度もイトーヨーカ堂「青森フェア」期間中の6日間(9/8～16)に販売された。今年度は、県が開発し販売している「できるだし」を全ての料理に使用した、その名も「できるだし弁当」である。

メニューは「①和風ガーリックピラフ」「②野菜だしを使ったひじきの煮物」「③山芋団子の彩あんかけ」「④いかと絹さやのさっと煮」「⑤いかの豆腐ハンバーグ」「⑥煮和えっこ」「⑦アップルジンジャーポーク」「⑧根菜と大豆のトマト煮」「⑨ごぼうの甘辛炒め」で、塩分相当量も2.9gに抑えた。デザートを入れず、料理が増えたため昨年より若干高めとなったが、豪華な弁当に仕上がった。



平成27年度福祉介護人材確保対策事業

高齢化の進行、ライフスタイルの多様化等により福祉・介護ニーズが拡大している中、質の高い人材の安定的確保が求められている。本学では、福祉・介護分野への人材の定着と参入を促進するための取組を総合的に支援することを目的として、各種公開講座・福祉セミナーを開催した。

公開講座「福祉を知ってみませんか？」

本講座は3地区を会場として実施し、視覚障害・聴覚障害に視点を当てた。知っているようで知らないコミュニケーションの取り方や移動の仕方などを学び、介護の入り口に立つことが出来たことと思う。



福祉セミナー

資格を有しながらも、事情により福祉・介護分野に就業していない介護福祉士潜在的有資格者を対象とした研修を行った。研修では、国際生活機能分類(ICF)の日本における第一人者・大川弥生先生による「ICFを徹底的に理解する」、福祉コミュ

幼稚園・保育園合同説明会開催

9月26日、本学においては初となる保育関連施設を一同に集めた合同説明会が行われた。説明会では各園の代表が園の魅力や特色等について熱く語る場面が見られ、学生達は真剣な態度でメモを取り、質問するなどし、双方にとって充実した時間となった。園の代表として本学の卒業生達の顔もあり、緊張した中にも話し易い雰囲気が見られ、予定していた2時間半はあっという間に過ぎた。

終了後のアンケートでは「一度に沢山の園の説明が聞けて良かった」「就職したい園に出会えた」「社会人としての生き方も学べた」「県内に残りたくなった」といった声があり、今後さらに参加施設が増えることで、地元就職率の向上に繋げていきたい。

(幼児保育学科講師 木村 貴子)



ニケーションで著名な諏訪茂樹先生による「福祉で使うコミュニケーション能力を高めよう」など、日本を代表する講師による貴重な講義を通して、理解を深めることができた。



「口から食べる」を支えるための食事づくり

介護現場からの要望に応え、食物栄養学科教員の協力のもと、「嚥下食」に関する講座を2回にわたって開催し、好評を博した。

下北地域実務者研修

今年度、実務者研修を下北地域においても開催した。介護福祉士をめざしながらも受講の機会が少ない下北地域での開催は、大きな一歩となった。

今年度は330名を越える参加者が本講座を受講した。今後も本学専攻科福祉専攻の強みを活かし、介護への学びを深める機会を提供していきたい。

(専攻科福祉専攻准教授 中村 純子)

公開講座「心を繋ぐおばあちゃんの郷土料理」

本学の公開講座は、各学科の特色を活かしつつ参加者が楽しく参加できる趣向をこらしています。中でも『心を繋ぐおばあちゃんの郷土料理』シリーズは、キャンセル待ちがでるほどの人気講座です。

今年度で三回目となる今回は、青森の郷土料理の筆頭にあげられる『けの汁』や、おもてなし料理としても活用できる新郷土料理の『帆立のもと焼き』の他、『長芋の梅肉』『しとぎもち』を作りました。

郷土料理には先人の知恵と愛情がたくさん詰まっています。そのため同じメニューであっても、各家庭で使用する材料や味付けが異なります。家庭で郷土料理を作る機会が少なくなっている現在、基本は守りながら作りやすい工夫を取り入れることで『〇〇家の郷土料理』を若い世代にも受け継いでほしいと願います。



先生の自分史「故郷と共に」

幼児保育学科

工藤 朗詠 先生

青森生まれ青森育ちの私は、この自然に囲まれた青森が大好きです。小さい頃、夏には虫捕りをしに山へ行き、冬には近所の公園で日が暮れるまでそり遊びをするなど、野外で遊んでいた記憶がたくさんあります。

春、夏、秋、冬と、四季折々の自然の美しさと楽しさが、常に生活と隣り合わせにありました。そんな私は、高校卒業後もこの土地で保育者の道をめざし、幼稚園教諭を経て現在に至ります。

これまでの自分を振り返ると、こうした豊かな自然と共に、温かな人たちにも恵まれて今の自分がいるのだと改めて感じることができます。ここまで支え、成長させてくれた周囲の人たちへの感謝の気持ちを忘れず、今後もこの土地の自然を満喫し、大好きな地元に貢献していけるよう日々成長していきたいと思えます。



研究室を訪ねて Vol.11

～池田研究室～

私達の研究室では、池田先生の指導と白取先生のサポートのもと、4つのグループがそれぞれ調理実験を主とした研究を行いました。研究室では、たまに研究より話が弾んでしまうことがあるほど、みんな仲が良く、いつも楽しい雰囲気でした。

そんな私達ですが、調理実験が主とはいえ、ただ作って食べるだけではなく、根拠を示すために先行論文を調べたり、締め切りに間に合うように計画を緻密に立てたりすることは、怠らず研究を行ってきました。スムーズに研究が進んだのは、息詰まった時や困った時に、池田先生、白取先生の2人の先生が優しくご指導してくださったことが、やはり大きかったと思います。

グループは、2～3人で構成されていたので、予定が合わないなど研究を進める上で大変なことが多かったのですが、それぞれの班で協力し頑張った結果、良い研究が出来ました。

(食物栄養学科2年 千澤 美春)



読んで欲しいこの1冊

食物栄養学科 清澤 朋子 先生

『二重らせん DNAの構造を発見した科学者の記録』 (ブルーバックス)

ジェームス・D・ワトソン 著、江上不二夫・中村 桂子 訳 (講談社, 2012)

「DNAの二重らせん構造」を覚えていますか(高校の生物にてできた相補的塩基対のあのカッコいいクルクル。通常は生物学的な意義も含め「美しい」と表現されるのですが)。この本では、そのDNAの立体構造「ワトソン-クリックモデル」の提唱にいたるまでの、同僚や上司との駆け引きや伝説的化学者との争いが、食事や女の子の話題とともにワトソンの視点で赤裸々に描かれています。

化学ざらいというジムが、理論家でおしゃべり好きのフランシスと、分子模型を弄り回しながら興奮と落胆を繰り返し、さらには世紀の大発見に向け、フェアな精神と野心との間に起こる焦りや苦悩を綴った日々の記録は、DNAの構造解明という偉大な功績が教科書の中だけの出来事でないことを教えてくれます。

憧れる反面、理解不能な暗号文のようだった分子生物学や生化学が、ほんの少し身近に思えた一冊です。

卒業生も活躍しています

幼児保育学科 44期生 社会福祉法人青森和幸会 和幸保育園勤務 今 千宏さん

9月に青森中央短期大学にて、市内の幼稚園・保育園合同の説明会が開かれました。この説明会は「市内の幼稚園・保育園の魅力を、学生達に伝える」というもので、新任の保育士でありながら、園の代表として参加させていただきました。説明会では、後輩達に和幸保育園の魅力を余すことなく伝えることができました。

1月には保育園で防犯訓練が行われ、3・4・5歳児の子どもたちを対象に「いかのおすし」のお約束を教えました。その他にもバス遠足でのバスレクや運動会、お遊戯会など様々な行事を通して、失敗と成功を繰り返しながら頑張っています。また、行事だけでなく、毎日の保育の中にも学ぶことがたくさんあり、日々勉強しています。うまくいかない事や大変な事もありますが、子どもたちの笑顔に囲まれて、楽しい毎日を送っています。



それいけ幼保！探検隊 Vol.3

皆さん、今の季節はインフルエンザなどの様々な病気が流行していますね。私達保育者の卵は実習などで子ども達と関わるので、特に注意が必要です。

私がよく見かける予防方法は手洗いうがいやマスクです。その他、栄養と水分をしっかりと摂取し、休養の時間を十分に取る、部屋の湿度と気温を一定に維持するなどがありますが、簡単に意外な予防法があるので紹介します！

それは、朝起きてすぐの「食事前歯磨き」です。寝ている間は唾液の量が減り、雑菌が繁殖しやすいそうです。これらを歯磨きで食前に除去することで、体内に雑菌が入り込むのを防ぎ、風邪やインフルエンザにかかりにくくなるそうです。皆さんは食前、食後のどちらで歯磨きをしますか？ちなみに、関東では食後、関西では食前にする習慣があるそうです。青森では…？是非試してみてください！

(学生記者 向川 華菜)



ちょっとした、ツブヤキ。 Vol.3

2月3日、皆さん何の日か分かりますか？2と3で「兄さんの日？」いやいや、節分の日です。節分と言えば何を思い浮かべますか？私は豆まきや恵方巻を思い浮かべます。豆まきの風習は室町時代から始まり、豆は邪気を払うと言われていて、その豆のもつ邪気払いの力で鬼を追い払うために豆をまくようになったとされています(※諸説あり)地域によって落花生と大豆とで違いますが、それについては今回ここでは言いません(笑)自分で調べてください。

さて、今年は「南南東」を向いて食べると幸せが訪れるというので、早速買って食べました。将来、保育者になったら行事の由来を子ども達にしっかりと説明できますように…と願ったのは言うまでもありません！【今年も幸せが訪れますように】

(学生記者 村田 和)



1人暮らしのレシピ Vol.10

冬と言えば、鍋！寒い季節は鍋に限ります。今回は土鍋で作る、野菜たっぷりの洋風煮込みレシピを紹介します。サクサク切って、鍋に詰め込んで…料理が苦手なあなたにも簡単にできます！！

土鍋 de ポトフ (2人分)

【材料】キャベツ1/8個・玉ねぎ1/2個(芯付のくし切り) / エリンギ1本(縦6切れに手でさく) / ジャガイモ小2個(皮を向いて4つ割りし水につける) / 人参小1/2本(ジャガイモより小さめの乱切り) / ウインナー4本 / ローリエ1~2枚 / 固形コンソメ2個 / 塩・こしょう適宜 / 水400ml

【作り方】①土鍋に野菜とウインナー、ローリエを上手に詰め込む / ②水とコンソメを入れ、沸騰するまで強火、その後火加減に調節して15分程煮込む / ③ジャガイモや人参に火が通ったら塩とこしょうで味を整える ※塩は必要に応じて加えること！

この料理のポイント
は「ローリエ」。本格的な風味を出すことができます。カレーやシチューを作るときなどにも入れてみて！

(学生記者 畠山 好)



食の春休み～インターンシップ研修体験～

後期期末試験も終わって休みに突入！皆さんはどんな春休みを過ごしますか。ショッピングや映画、旅行に……。もちろん、忘れたいけど忘れてはいけない勉強も(T ^ T)

食物栄養学科では春休みに、希望者が「一般企業」か「栄養士」のインターンシップ研修を行います。かくいう私も、病院で栄養士のインターンシップ研修をしてまいりました！！2/15～19の5日間、厨房や事務業務を体験しました。厨房では食材の下処理、洗い物、盛りつけなどの業務や、キウイフルーツやりんごもカットして盛り付けて患者さんに提供しました。現場では、調理員さんとのコミュニケーションの大切さを実感し、事務業務では1つの献立を他の患者さんに合わせて変化させる「献立の展開」ということを行いました。

短い期間でしたが、現場でしか知ることのできないこの貴重な体験を、4月からの勉強に役立てたいと思います。(学生記者 畠山 好)



附属第一・第二・第三幼稚園 / 中央文化・浦町保育園

教育方針

—健康で明るく心豊かな子ども—

- 友達と仲良く遊ぶ。
- よく見、よく聞き、よく考える。
- 思ったことははっきり話す。
- 自分のことは自分でやる。

認定こども園附属第一幼稚園



サンタの可愛い衣装を着て、キラキラきれいなイルミネーションの前でハイポーズ♡



ロッククライミング♡みてみて！こんなに高くまで登れるようになったよ♪



1月生まれのお友だちお誕生日おめでとう！
カッコいいお兄さん・お姉さんになってね★

認定こども園附属第二幼稚園



園庭にビッグスライダー登場！みんなで仲良く遊ぼうね。



12月の誕生日会にサンタさんが来てくれました。プレゼントもありがとう♪



たくさんの雪が積もり、みんなが大好きな季節です。お友達とかまくら作り楽しいね。

認定こども園附属第三幼稚園



どんな雪だるま作ろうかなあ。カメラを見ながら考え中。



豆まき誕生日会。ちょっとこわいけど、鬼は外～



小学校訪問。りっぱになった卒園児の一年生と楽しく交流。

幼保連携型認定こども園中央文化保育園・浦町保育園



♪もういくつ寝るとお正月♪つきたてのおもちをコネコネ。おいしいお雑煮のできあがり～♪



三段の雪だるまを作ったよ！帽子の飾りがオシャレでしょ♪



12月9日、4才児の女の子が特別養護老人ホーム三思園へ慰問をし、おゆうぎ・手遊びなどでふれあいをしました。笑顔いっぱい楽しい一日でした。

先生達活躍しています 第13回

『子どもの成長と共に』

認定こども園中央文化保育園

倉内 昭恵先生



中央文化保育園に勤務して4年目になりました。保育者として18年、家庭でもお母さんとして子育て経験があります。園では0・1歳児、ひよこ組を担当しています。

0歳児の保育は、一人ひとりのリズムでゆったりと過ごせるよう心がけています。ミルクの時間が重なったり、眠くてぐずったりすると一斉に泣きはじめることもあります。クラスの先生方と連携をとり対応しています。

一人ひとりの個性や生活リズムを大切にしながらの保育は、時には難しく感じることもありますが、保護者の皆さんや職場の仲間たちと、無邪気にかわいい子どもたちの成長の喜びを感じられる毎日がとても嬉しいです。

これからもすくすく育っていく子どもたちの成長と子育てをする保護者の手助けをして、子どもたちと楽しく過ごしていきたいと思っています。

『子ども達の健康のために』

認定こども園浦町保育園

秋田 麻美子さん



栄養士として働いて3年目を迎えました。栄養に関してはもちろん、子ども達のことを考えながら、より良い給食作りに向けて日々励んでいます。

また、食に対する興味や関心を持ってもらえるように、食育にも積極的に取り組んでいます。給食に使っている食材の絵を、毎日給食室の前に掲示したり、旬の食材や食事のマナーなど、子ども達に知ってもらいたいテーマを考え、楽しんで学べるような工夫をして毎月発表したりしています。その甲斐もあり、今では子ども達と給食の話や食育発表で話した内容など、食に関する会話が弾んでいます。毎日どんなお話ができるか、私の楽しみの一つになっています。食育が少しでも身になっているなあ、と実感でき、とてもやりがいを感じています。

今後も、おいしくて安心・安全な給食作り、楽しい食育をめざし、子ども達の健やかな成長の手助けとなるように頑張っていきます！

『ママ先生として』

認定こども園附属第三幼稚園

大西 寿志子先生



昨年度、年少組と一緒に過ごした子ども達と、今年度また、年中組と一緒に過ごすことになり、新たな気持ちで楽しい毎日を送っています。

今年度は、新人の先生と組んでいるため、一つ一つ指導しながら、子ども達はもちろん、先生としての成長も見守っていきたくと思っています。

私には、二人の子どもがいます。「認定こども園」になり、お仕事をしているお母さんが増えて今、同じ子を持つ働くママとして、安心して預けられる幼稚園、子ども達が安心して通える幼稚園となれるよう、そして私自身、時には幼稚園のママになり、子ども達の気持ちを尊重しつつも、きちんと善悪を教える保育者をめざし、日々努力していきたいと思っています。

読み聞かせたい一冊の絵本

認定こども園附属第一幼稚園 伊勢田 愛美先生

『にているね!』

五味太郎作 (福音館書店, 2011)

真っ黒な馬と椅子が出てきて、「足が4本あるね。」「どちらも誰かに優しくしてもらったら嬉しいよね。」と、互いの見た目や気持ちで似ている所を探していきます。

子ども達も「動物と椅子なのに似ている所があるんだね。」「椅子や動物にも人間と同じく気持ちがあるんだね。」と、思わず感心。絵も可愛らしく、読んだ後は友達や幼稚園にあるものと、自分のどんなところが似ているかを探して、楽しむことが出来る一冊です。



青森中央経理専門学校・青森中央文化専門学校

ユニバーサルファッションショー参加

1月30日、アウガ5階AV多機能ホールにおいて、あおりファッション協会主催のユニバーサルファッションショーが開催された。青森中央文化専門学校ではこのショーに、衣裳協力およびモデルとして参加した。授業で学んだユニバーサルファッションを基に、CIL青森の協力モデルのリクエストも取り入れ、オリジナルデザインの衣装を制作した。

既製服では得られない、体の機能に配慮した冬でも暖かく軽い2部式コートや車いす全体を包み込むケープ。振袖や白内掛けをリメイクした作品やウエディングドレスなど体に優しく、華やかな装いを提案し、モデルや観客からも好評を博した。



研修旅行

青森中央文化専門学校では11月2日～4日、研修旅行を実施した。今年の研修ではアパレルブランド「MIDDLA」のデザイナー・安藤大春氏のアトリエ見学・講話に加え、各専攻別の研修を導入した。アパレル専攻ではパターンメイキングおよびサンプル作成を主とするUSPアソシエーションの代表取締役とのディスカッション、ファッション販売専攻ではアパレルショップの激戦区である渋谷・原宿エリアのリテールマーケティングを行うなど、貴重な体験の場となった。

また最終日には、連鎖校である文化服装学院の文化祭でファッションショーを見学した後、日暮里繊維街で生地や副資材を購入。参加学生は、物作りへの意欲を新たにし、将来へ向け視野を広げられた研修旅行となった。



Bunka Fashion Live2015に携わって

私は、本番当日のアナウンスを担当し、リハーサルにも参加しました。リハーサルでは、青森中央文化専門学校学生の皆さんと先生達が一丸となり、ウォーキングの練習や音楽、照明などの指示や確認を何度も丁寧に行っていました。とても忙しそうでしたが、皆さんの表情や動きから、「笑顔で最高のショーにしたい」という想いが私にも伝わり、私も一緒に最高のショーにするために、受付準備から携わりました。本番では、アナウンスの役目をしっかり果たそうという気持ちから、とても緊張しましたが、会場の雰囲気が各テーマの世界観と一致し、舞台袖から見ても素敵なファッションショーでした。

(学生記者 猪股 美沙子)



日本銀行青森支店を見学して

12月15日、青森中央経理専門学校の経理事務コースの学生は、日本銀行青森支店を訪れた。経理事務コースで学んでいる「金融（お金）」について、金融の一端を担っている日本銀行の現場を体感し、これまで学んできたことの理解を深めることが目的である。

職員の方より、日本銀行の仕事内容や経済と銀行の仕組みについて説明を受け、お金と経済の深い関係性を改めて学んだ。また、「たてよみ」「よこよみ」を使った紙幣の数え方についても学んだ。学生達は慣れない手つきで紙幣を数え、職員の技術に深く感銘を受けた様子であった。さらにはルーペやブラックライトを使って紙幣を細部まで確認し、身近なものである紙幣に偽造防止のための様々な技術が施されていることを目の当たりにし、驚いていた。



経理発信情報 Vol.16

～学生パソコン教室 ワードで年賀状作成～

青森中央経理専門学校では、11月21日、学术交流会館3階にて学生主催のパソコン教室を開催した。一般の方々を対象とした無料パソコン教室は、学生が地域住民の方々と触れ合いながら地域貢献と社会参加の大切さと各自が役割を持つことで、組織の中で考え、自ら行動することをめざし、毎年開催している。

インストラクター役の学生は、参加者が作成したいデザインの年賀状を、パソコン操作とデザイン等のアドバイスをしながら、約2時間で作成。参加者の方々からは、「毎年参加している。年々教え方が良く、楽しく参加できた。」「同じことを何回も聞いても、嫌がらず教えてくれた」と感想をいただき、学生達は自分の成長に繋がる時間を過ごした。



おすすめ図書 Vol.14

青森中央文化専門学校 佐々木 美保子 先生

『悼む人』

天童 荒太著 (文藝春秋,2008)

この本は直木賞受賞作で、その後舞台や映画にもなった作品であり、目にした人も多いと思います。

主人公は、友人の死をきっかけに事件や事故で亡くなった人を『悼む』ため日本各地を放浪して歩き、「生前誰を愛し、愛され、感謝されたか」を記憶していきます。何のために『悼む』のか理解されづらい行為が、家族や周りの人に影響を与えていく物語です。

作者は2001.9.11アメリカで起きた同時多発テロをきっかけに書きあげたそうです。初めて読んだ時、亡くなった人を皆等しく尊ぶという主人公になかなか共感できずにいましたが、2011.3.11の東日本大震災を経験し、ニュースで見た映像やその地を訪れたとき、また、悲惨な事件や事故のニュースを見るたびに思い出す、忘れられない一冊となりました。

本学図書館新刊・お勧め図書のコーナーで手にした本です。

ファッション通信 vol.14

～JOYFUL～

2016SSは、柄×柄や異素材MIXなど、ギリギリの組み合わせで、見ているだけで楽しくなるような、遊び心のあるユーモラスなファッションがトレンド。

ロマンティックでフェミニンなシルエットや、パステルカラー、レース、刺繍、シースルー素材などで春らしく。そして、ストライプや花柄など、色だけでなく柄も華やかにするのがポイント。

一方、洋服はオーガニックカラーやモノトーンでシンプルにして、小物で春を演出するのもお勧めです。

ヘアスタイルは、インナーカラーを入れて外国人っぽくくせ毛風に。三つ編みアレンジでヒッピー風にしても◎



(記事・デザイン画：文化編集部サークル)

卒業生ピックアップ No.26

青森中央文化専門学校 平成12年度卒業

「RETRONYM」代表

佐藤 康聖さん

私は青森中央文化専門学校を卒業後、アトリエでの勤務を経て、現在はアパレルブランドのコレクションや新商品のサンプル（見本）と店頭商品の制作をする「RETRONYM」の代表を務めています。仕事内容は基礎が非常に大事な職種でもあるので、学校で身につけたパターンの知識や縫製技術を基に、創意工夫を続けています。

新しい素材や複雑な仕様などの困難もありますが、自分の手で制作をした洋服がコレクションのショーやファッション誌に取り上げられ、ファッションを生み出す仕事に大きな誇りを感じています。

今後もファッション業界を牽引していく一員として、知識や技術を更に磨き、日々成長を続けていけるよう頑張ります。



学園共通

学生公演を終えて ～12月19日(土)開催～

【Bunka Fashion Live2015】

青森中央文化専門学校によるBunka Fashion Live 2015、10回目の開催となる今年度は、「Close yet far～in the not so distant future～」と題したテーマのもと、全8シーン・52点のオリジナル衣装を発表した。

学生達は、企画、演出、構成、照明、音響など試行錯誤しながらステージを作り自らがモデルとなり、ヘアメイクやウォーキングに至るまで日頃学んでいるトータルファッションとしての知識や技術を披露した。エスニックなデザインの衣装をはじめ、学園祭コスチュームショーで発表したオリジナル作品の他、青森県内在住女性の写真集を発行するプロジェクト「108 AOMORI GIRL」へ学生がデザイン・制作したコスチューム完成披露ファッションショーも行われた。



古本募金開始!

学校法人青森田中学園は、社会貢献事業の一環として推進しているリサイクル募金活動「きしゃぼん」の協働パートナーとして、嵯峨野株式会社と提携契約を締結しました。「きしゃぼん」との提携は、青森県の大学としては初となります。

「きしゃぼん」は図書やDVD・CDなど、使い終わったものを嵯峨野株式会社へ送付することで、青森田中学園に寄付が行える新しい形態の古本募金です。古本募金を通じて集まった寄付金は、青森田中学園基金に充当し、図書館の図書・雑誌・新聞・データベース・視聴覚資料の購入等に活用させていただきます。

不要になった図書などを本学へお持ちいただく場合は、学内3ヶ所(本部棟・2号館・7号館)に設置している回収ボックスへ投函してください。このほか、専用申込フォーム(www.kishapon.com/aomoricgu/)、フリーダイヤル(0120-29-7000)でもお申込みを受付しております。

本学で学ぶ学生に向けた、皆様からのあたたかいご支援をお待ちしております。



【幼児保育学科45期生卒業記念公演】

45期生卒業記念公演、今年の演目は「アラジンと魔法のランプ 愛～永遠の宝物～」でした。異国情緒溢れる色彩感と音楽、迫真の演技やダンス、毎年の事ながら、親しみのある物語をその年の学生の色に染めて創り上げていく姿を楽しみにしています。本番に向けて最後まで妥協せず作品と自分に向き合う学生たちの姿と、本番を終えたあとの充実感に溢れた表情からはたくさんの勇気ももらうことができます。プロが演じるステージとはまた別の若者の本気を感じる清々しいエネルギーにあふれたステージからは、学生たちが駆け抜けた時間の尊さを感じます。フィナーレでは来場者の熱いエールがアウガのホールに響き渡り、幸福のひとつは幕を閉じました。



キャンパスイルミネーション

今年度も毎年恒例のイルミネーション点灯を実施しました。

イルミネーションの配色は、青森中央短期大学幼児保育学科の学生から寄せられた「シックで落ち着いたイメージ」をテーマとして、昨年同様、ブルーやシャンパンゴールドを用いた配色となりました。また、平成27年10月に完成した附属第一幼稚園新園舎を中心に、ライトアップを施しました。点灯期間中は、屋外のライトアップはもちろんのこと、園舎内にもイルミネーションを施し、学内外にイルミネーションによる光の競演を提供しました。

また12月1日には、附属第一幼稚園の園児及び青森中央短期大学幼児保育学科の学生が参加して、イルミネーション点灯式を実施しました。点灯式では園児の合唱やサンタが登場するサプライズ演出等に彩られ、学内のみならず地域に対しても極寒の12月に暖かい催しを提供できたと思います。



公開講座 「あさが来た」のヒロイン -女性実業家 広岡浅子-

2月14日、日本女子大学教育文化振興会桜楓会、青森・弘前・八戸3支部及び青森中央学院短期大学主催で、前日本女子大学学長で現日本女子大学教育文化振興会桜楓会理事長である有川芳子氏より、女性実業家、広岡浅子についての講演会が行われた。おりからNHK朝のドラマ、「あさが来た」のヒロインのモデルであることから、600席設けた会場はほぼ満席という大活況であった。また、聴衆の大部分が女性客であることから、いかにこの女傑の生き方が、老若問わず広く女性にアピールするものであるかを改めて感じ入らせるものであった。

広岡浅子は、江戸時代末期、当時の京都の豪商の家に生まれ、17歳で大阪の豪商に嫁ぐが、維新の混乱の中で、間もなく家業は倒産の危機を迎えることとなり、浅子は炭炭商店を開業し石炭業に進出する。そして1888年には、加島銀行を設立している。また潤野炭鉱の再開発に着手した際には、浅子自

らがピストルを懐にしおのばせて炭鉱に赴き、鉱夫たちと起居をともして監督している。

実業界でこうした躍進的な業績を残す一方で、浅子は女子教育の普及にも大きな足跡を残すことになる。1896年、成瀬仁蔵と出会い、女子の高等教育の必要性を説く成瀬に共鳴し、女子大学校設立のために支援を行う。これが日本女子大学校の開校として実を結ぶ。現日本女子大学の前身である。

本講演では、浅子ゆかりの日本女子大学前学長、蟻川芳子氏が、広岡浅子が日本女子大学設立にいかにか尽力したか、そして女子の最高学府として設立された日本女子大学が、その後、社会において活躍する女性をいかに輩出していったかを語り、浅子の貢献を讃えた。

大盛況の本公開講座を終えて、学府としての青森田中学園の地域貢献の意義を改めて明確な手ごたえとして確認したイベントであった。

(加藤 澄 編集長)



青森田中学園 70周年記念ロゴマーク決定!

学校法人青森田中学園は平成28年6月、創立70周年を迎えます。これを記念し、70周年記念ロゴマークを制定しました。デザインは本学園の創立と共に誕生した、青森中央経理専門学校の68回生、佐藤 真乃さんの提案が基になっています。

背景の「青森田中学園」の文字のカラフルな色は、本学園の各設置校のブランドカラー6色を用いており、中心の「70」のゼロには、本学のシンボルであるこぶしの花がデザインされています。



教員著書紹介



【ひなちゃんとおひさま】
花田勝美 著,
石田春佳 イラスト
(2015.12)
※イラストは青森中央短期大学イラストサークル所属・石田春佳さん



【政宗の陰謀】
大泉光一 著
(大空出版,2016.2)



【歴史研究と「郷土愛」】
大泉光一 著
(雄山閣,2015.5)



【たのしく学べるミネラル講座】
花田勝美 編著
(弘前大学出版会,2015.3)



【意思決定と合理性】
(ちくま学芸文庫)
ハーバート・A.サイモン 著,
佐々木恒男・吉原正彦 編訳
(筑摩書房,2016.1)



【日本人リーダーは、なぜ危機管理に失敗するのか】
大泉光一・大泉常長・企業危機管理研究会 著
(晃洋書房,2015.10)



「こぶしの花」掲載写真募集！

こぶしの花編集委員会では、「こぶしの花」（表紙）に掲載することを目的に、写真作品を募集しています。現在、6月発行予定の96号表紙掲載写真を募集中です。学園内の風景を題材に、皆さんの力作をお待ちしています。

■96号応募締め切り：4月22日

■応募先メールアドレス：kobushiphoto@aomoricgu.ac.jp

※応募の際、メールの表題には「こぶしの花写真応募」、メール本文には「学部学科・学籍番号・氏名・（電話番号）」を記入してください。

※本応募は、投稿の資格は青森田中学園在学生在が撮影した未発表作品に限ります。

※本応募に関するご質問等は、こぶしの花編集委員会までお問合せ下さい。

お問合せ先：kobushiphoto@aomoricgu.ac.jp



携帯から応募の際は
コチラをご利用下さい

青森田中学園報「こぶしの花」第95号

発行日：2016. 4. 1

発行：学校法人 青森田中学園

〒030-0132 青森市横内字神田12

TEL：017-728-0131

FAX：017-738-8333

<http://www.aomoricgu.ac.jp>

<http://www.chutan.ac.jp>

「こぶしの花」編集委員

編集長

松島 正起

木村 貴子

坪谷 輝子

岩葉 悦子

中田 尋美

加藤 澄

浜中 幸美

佐藤 紋子

八木橋ひろみ

高橋 晴美

学生記者

相馬 芹香

佐藤 教衣

畠山 好

村田 和

鳴海しづの

向山 華菜